

Kimura Shunto

木村駿斗さん



Work

○島の広告代理店・株式会社 釣りします
専務取締役

Area 岐阜県・愛知県 ▶▶▶ 五島市

「毎朝、出勤前の二時間は釣りをしています」。お目当ては、夕飯用のイカらしい。「刺身にしたり、丸ごと焼いたり、美味しいんですよ」。そうやって、木村駿斗さんは笑った。

岐阜県生まれの木村さんは高校卒業後、名古屋で就職。その後、人材系のベンチャー企業に転職し、営業・企画・管理などハードな仕事をこなしていた。しかし、半年ほど仕事をすするうちに、もっといろんなことに挑戦してみたいという気持ちがかくくみ退職、フリーランスの道を選んだ。ところが住む場

所や仕事をすべて一新しようと、海外移住を模索していた時に新型コロナの感染が拡大し、断念することに。

五島列島との出会いはSNS。海がない県で育ったからか、島の美しい海に憧れもあった。最初は三カ月の予定でスタートしたシェアハウスでの暮らしも、雄大な自然と島の人たちの交流が楽しく、あっという間に一年が経ち、遂に半年前から一人暮らしを始めた。

木村さんは五島の魅力を「ちよつどいい田舎暮らしができること」と話す。「車で十分以内にスーパーや薬局、コンビニなど何でもあります。もちろんネット環境も整っていますし、福岡までは飛行機で四十分。都会での長い通勤時間を考えれば、なんてことありません。また車で二十分も走れば、波の音や鳥の声しか聞こえないスポットがたくさんあります。求める暮らしができて、しかも自然を存分に味わえるこの島は最高ですね」。

よく野菜を買う場所は、所だと教えてくれたのは、小さな無人販



五島は
ちよつどいい
田舎暮らしが
できる場所。



初めて生きた魚を見たのは、五島に来てから(笑)。その僕が毎日、釣りを楽しんでいます!

売所。新鮮な野菜が全て百円。

「農家の方から野菜は炒めるのが一番美味しいと教えてもらい、何でもソテーにしています」と木村さん。お邪魔した一軒家は静かな場所にあり、一人暮らしには充分過ぎるほどの広さで、きれいに整頓されていた。ここで料理を楽しんだり、大好きなコーヒーを淹れたりする時間は、とても充実しているという。「今は何をしても幸せです。よく夢を聞かれるんですが、もう叶えているなって感じています」。そうやって、木村さんはまた笑った。

魚釣り

Enjoy

五島ではいろいろな場所で気軽に釣りを楽しむ人の姿を見かける。青い空と海を満喫する釣りは、この島では日常である。

Enjoy

島の食材

「五島は魚だけでなく、肉も野菜も本当に美味しいんですよ」と木村さん。島の食材に惚れ込んでいる様子だ。



Work

コワーキングスペースにて

よく仕事をするという、ホテル内のコワーキングスペースは、移住者同士のコミュニケーションも盛ん。



長崎で働く、暮らす。Kimura Shunto

Relax

島ならではの大自然

「鬼岳」は大好きな場所のひとつ。小さな島々が浮かぶ五島らしい風景もさることながら、夜は星空と夜景をセットで楽しめるそう。



木

村さんは同じく五島に移住してきた人とともに

会社に設立している。島の広告代理店として、地域のひとと一緒に島の経済を盛り上げることを目標に、情報を発信するメディアを五島につくるべく奔走中だ。二〇二一年七月には、学校のそばに駄菓子屋をオープンした。「子どもたちが楽しめる場所を作りたい、人が集まる場所を作りたいという思いで始めました。自分たちが儲かるだけの仕事ではなく、大好きな五島のためになることを一つずつやっていきたい、そう考えているんです」と木村さん。オープン初日には二百名の行列ができたという駄菓子屋には、夕方になると子どもたちの元気な声が響いている。

近年、五島への移住者はどんどん増えている。その理由を木村さんはこう推測する。一つは島の人たちが移住者を優しく受け入れてくれること。釣りに誘ってくれたり、美味しい店を教えてください。野菜をお裾分けしてくれたり。島ではそんな温かな交流が普通だ。もう一つ

は先輩移住者が新しい移住者をサポートしてくれること。「何かそういう制度が整っているとまではなく、自然に行われていきます。仕事を始めたいと相談すると『あの会社の社長さんを紹介するよ』と声を掛けてくれるなど、本当に頼りになります」。木村さんは移住者同士の絆の深さが、島に根づくことにつながっていると感じている。実際、周りにもたくさん移住者がいるという。「自分の仕事をやりつつ農家の手伝いをするなど、皆がいろんな働き方をしています。僕たちの中では、そ

れぞれ働き方が違うのは当たり前、いろんな働き方や生き方があることが当然なんです」。島に新しいものをつくるために、木村さんは「島の人になりすぎないようにしている」と話します。「島の人の思いを大切にしながら、外からの視点でアイデアを出していきたいんです。島に染まり過ぎないように、月に一度は福岡や長崎市へ出かけるようにしています。島にいると、ここでの暮らしが心地良くて、のんびりし過ぎてしまうんですよね（笑）。木村さんはちようどいい田舎暮らしをしながら、ちようどいい居場所を見つけていた。

Refresh

地域散策

五島にはネットに載っていない情報がたくさんあるため、散歩の時は知らない道を歩いてみることも多い。



Work

駄菓子屋



駄菓子屋のそばには小学校、中学校、高校があり、子どもたちの楽しみ場所となっている。